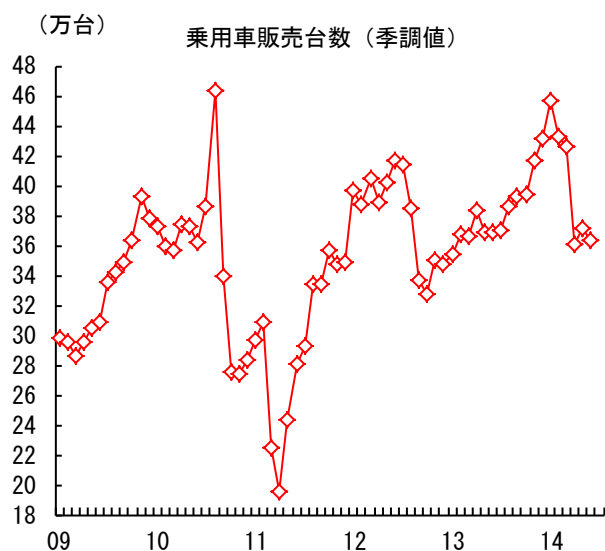


テーマ：新車販売台数（2014年6月） ～反動減後の戻りが鈍い～

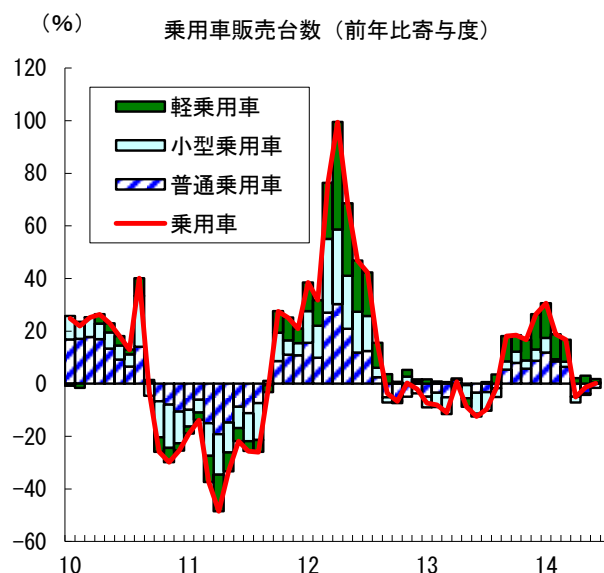
発表日：2014年7月1日（火）

第一生命経済研究所 経済調査部
 主席エコノミスト 新家 義貴
 TEL:03-5221-4528



(出所) 日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会

(注) 季節調整は第一生命経済研究所



○ 前年比ではプラス転化も、前月比では小幅減。

本日公表された6月の乗用車販売台数（普通・小型乗用車販売台数と軽乗用車販売台数の合計）は前年比+0.1%となった。4月の▲5.1%、5月の▲1.3%の後、3ヶ月ぶりに前年比プラスに転じている。ただし、季節調整値（筆者試算。以下同様。）で見ると、6月は前月比▲2.2%と小幅ながら減少している。4月の前月比▲15.3%の後、5月は+2.8%とプラスになり、底打ちかとも思われたが、6月は再び落ち込んでいる。4、5月は増税前に積みあがった受注残の販売分により押し上げられていたため、（受注残が縮小した）6月分が4、5月対比弱めに見える面もあるのだろうが、いずれにしても物足りない結果と思われる。乗用車販売は4月以降底ばい状態にあると判断され、まだ反動減からの改善は見られていない。

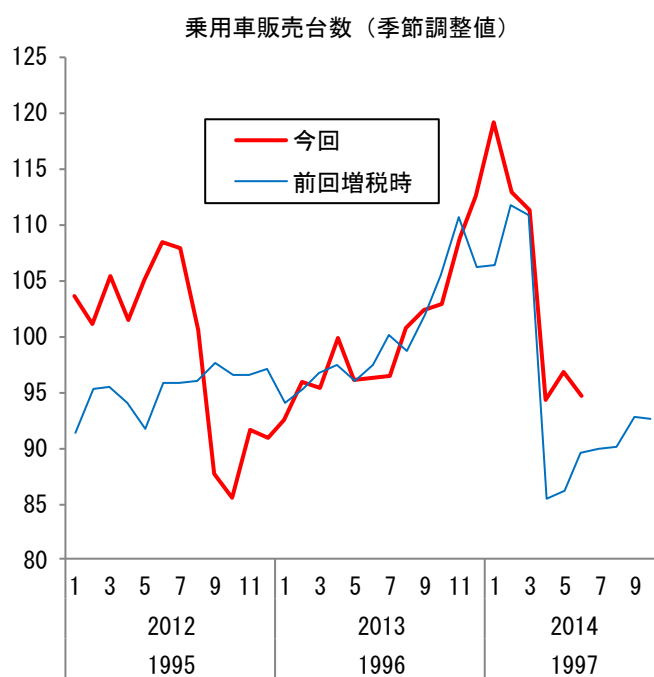
なお、4-6月期は季節調整済み前期比で▲16.8%となった（13年10-12月期：前期比+8.2%、14年1-3月期：+6.0%）。駆け込みの反動が顕著に出ており、4-6月期は自動車販売の落ち込みが個人消費を大きく押し下げることになるだろう。自動車以外の消費についても4、5月は大幅な落ち込みが示されており、4-6月期の個人消費は大幅減が確実、GDPも大幅マイナス成長必至の情勢だ。

○ 前回増税時より減少幅は小さい

前回増税時と比較すると、97年1-3月期は前年比+14.1%、4-6月期が▲10.5%だったが、今回は14年1-3月が前年比+20.9%、4-6月期が▲1.9%である。また、季節調整値では、97年4-6月期が前期比▲20.6%（1-3月期：+2.1%）、14年4-6月期は前期比▲16.8%（1-3月期：+6.0%）である。自動車販売における今回の駆け込み規模は前回増税時よりも大きかったが、その割に4-6月の落ち込み幅が前回

よりも小さい。今のところ、前回増税時に比べて自動車販売は健闘しているとの評価は変わっておらず、少なくとも反動減の域を超えて販売台数が大きく落ち込んでいる状況にはない。

ただ、月次で見た反動減後の戻りが弱いことはやはり気にかかる。7月以降も改善が限定的なものにとどまるようであれば、自動車販売が底堅いとも言っていられなくなり、7-9月期の個人消費持ち直しシナリオにも疑問符が付くことになる。先行きの景気回復力の強さを占う上で、7月以降の自動車販売の動向に注目したい。



（出所）日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会

（注）季節調整は第一生命経済研究所

（注）2013年平均、1996年平均をそれぞれ100として指数化